岩手県立大学
Iwate Prefectural University

岩手県立大学年報

平成31（令和元）年度

Iwate Prefectural University
Annual Report 2019

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。

（岩手県立大学「建学の理念」）

岩手県立大学の沿革

1951年4月	岩手県立盛岡短期大学開学
1990年4月	岩手県立宮古短期大学開学
1998年4月	岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
2000年4月	大学院を開設［ソフトウェア情報学研究科博士前期課程・同後期課程／総合政策研究科博士前期課程］
2002年4月	大学院を開設［看護学研究科博士前期課程／社会福祉学研究科博士前期課程／総合政策研究科博士後期課程］
2004年4月	大学院を開設［看護学研究科博士後期課程／社会福祉学研究科博士後期課程］
2005年4月	公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任
	第一期中期目標・中期計画期間スタート
	岩手県立大学地域連携研究センター設置
2006年4月	盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設
	共通教育センター設置
2009年4月	中村慶久学長が就任
2011年4月	第二期中期目標・中期計画期間スタート
	いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）設置
	地域政策研究センター設置
2013年4月	高等教育推進センター設置
2014年4月	共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
2015年4月	鈴木厚人学長が就任
2017年4月	第三期中期目標・中期計画期間スタート

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”

［未来を切り拓く力を高める教育］
［未来創造に資する地域貢献］
［教育と地域貢献の根幹となる高い研究力］

岩手県立大学年報 －平成31（令和元）年度－　目次

第三期中期目標･計画及び平成31（令和元）年度業務実績 … 03
平成31（令和元）年度地域貢献の活動状況 …… 05
平成31（令和元）年度研究の活動状況 …… 07
平成31（令和元）年度教育の活動状況 …… 13
令和2年度入学及び平成31（令和元）年度卒業･就職の状況…… 15
令和２年度の入学者選抜の状況 …… 15
平成31（令和元）年度の卒業者及び就職の状況 ……17
平成31（令和元）年度財務状況 …… 19
令和２年度組織図 …… 21
令和２年度役職員 …… 22

岩手県立大学トピックス －平成31（令和元）年度－ | iwate prefectural university topics

4月1日

鈴木厚人学長２期目就任

４月16日、鈴木厚人学長が再任に伴う就任会見を実施しました。
学長は、建学の理念に基づきながら、地域・国際社会の中で大学の社会的責任を果たしていくために、大学力強化・国際連携・地域社会創生の事業を拡充させたいと抱負を語りました。
第２期は、「国連アカデミック・インパクトへの加盟」、「北いわて産業・社会革新の推進に向けての岩手県との連携」等の構想を推進していくとしています。

5月24日

国連アカデミック・インパクトに加盟

本学は、国連アカデミック・インパクト（UNAI）に、５月24日付けで加盟しました。UNAIは、大学の社会的責任の追及を国際的に行っていくための取組です。世界135か国以上で1,400以上の機関が加盟しており、本学でも、世界の高等教育機関と連携しながら社会貢献活動を推進していきます。

4月11日

岩手県との「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結

北いわての地域課題の解決及び産業振興に向け、県立大学と岩手県との連携協力協定の締結式が、４月11日に行われました。
両者の密接な連携・協力のもと、取組プラットフォームの構築や産学官連携によるモデルプロジェクトの創出等を推進し、北いわての地域課題の解決や産業振興への寄与を目指します。

5月

滝沢市IPUイノベーションセンター開所10周年

大学を中心とした町づくり、産学連携や地域産業の振興などを目的に開所された滝沢市IPUイノベーションセンターは、５月に開所10周年を迎え、７月10日には記念フォーラムを開催しました。
５月時点で26の企業が入居・立地しており、今後も各企業と連携し、時代や環境の変化に対応しながら、イノベーションセンターのますますの発展に向けて取組んでいきます。

7月25日、3月1日

企業との包括的連携協定を締結

本学では、地域ニーズや地域課題と学内シーズとのマッチングに努め、企業と包括連携協定を締結しています。
7月25日は「KDDI株式会社」と、3月1日には「株式会社テムテック研究所」と、それぞれ包括連携協定を締結しました。今後、より一層の相互の人的･知的資源を活用した教育活動の推進等による地域活性化を推進していきます。

1月20日～26日

研究紹介番組「けんだいちいき研究室」を放送

岩手県立大学の研究や地域貢献について分かりやすく紹介するテレビ番組「けんだいちいき研究室」を１月20日から26日までの間、６回放送しました。
放送後は、本学公式YouTubeで動画を公開しています。ぜひご覧ください。

11月19日

ソフトウェア情報学部 藤田ハミド教授がHCR2019に選出

ソフトウェア情報学部 藤田ハミド教授が、論文の被引用数が世界で上位１%に当たることから、クロスフィールド分野で「Highly Cited Researchers 2019」（米国クラリベイト・アナリティクス社）に選出されました。

12月8日

ダブルダッチサークルのチームが国際大会で優勝

本学のサークル「ROPE A DOPE」のチーム「刹那」が、12月８日に米国ニューヨークで催されたダブルダッチの国際大会「National Double Dutch League ホリデークラシック」（主催：National Double Dutch League）に出場し、優勝しました。

2月15日

学生が「大学SDGs Action! AWARDS 2020」グランプリ受賞

ソフトウェア情報学部の学生２名が、2月15日に「大学SDGs ACTION! AWARDS 2020」コンテスト（主催：朝日新聞社）で100組を超える応募の中から、最高賞であるグランプリを受賞しました。

新型コロナウイルス感染症への対応開始

新型コロナウイルス感染症への対応として、２月に学内に対策本部を設置。
学生及び教職員の健康維持を最優先に考え、「学位記授与式・伝達式」、「合同企業説明会」等の行事が中止となりました。

第三期中期目標・計画及び平成31（令和元）年度業 務実績

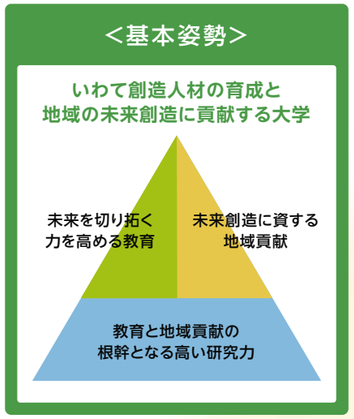
第三期中期目標・計画

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、平成29年度から令和4年度までの6年間の第三期中期目標期間において、東日本大震災津波からの復興とその先を見据えながら、**「ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む学びの府」**として、第三期中期目標に掲げられている**「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」**を目指します。

この目標の実現に向けて、開学以来取り組んできた**「地域に根ざした実学・実践重視の教育研究活動」**に加え、開学20周年（平成30年）を契機とした教育研究組織の見直しとともに、**社会環境の変化や地域社会のニーズに対応した教育研究活動や地域貢献活動に取り組んでいきます。**

第三期**中期目標**



第三期**中期計画**における「重点的に取り組む事項」

第三期中期計画では、中期目標を達成するために教育、研究及び地域貢献の各分野で重点的に取り組む事項を掲げ、全学を挙げて取組を展開しています。

教 育
全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

POINT
いわての「未来を創造する人材」を育成するため、産業界・地域等との連携の下、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と学生の主体的学修を促す能動的学習の推進

研 究
教育と地域貢献を支える研究活動の強化

POINT
いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

地 域 貢 献
地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

POINT
いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

平成31（令和元）年度の主な業務実績

特に、新たな基盤教育プログラムの策定による教育内容の充実、グローバル人材の育成に資する新たな科目群の創出等による国際交流の機会の拡充、自治体や企業等と連携した研究活動の推進、広報行動計画策定による戦略的な広報体制の整備等に成果がありました。

県地方独立行政法人評価委員会からは、年度計画に掲げる45項目のうち、AA評価(特筆すべき進行状況にある)が4項目、A評価(計画どおり進んでいる)が37項目、B評価(おおむね計画どおり進んでいる)が1項目とされ、「おおむね計画どおり進められたと認められる」との評価結果が示されました。

教育

全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

- ●新たな基盤教育の理念及びカリキュラム・ポリシーによる基盤教育カリキュラムの策定。また、「地域」副専攻の内容の拡充及び「国際教養」副専攻を新設
- ●経済的困難を有する学生の海外研修参加を支援するため、奨励金給付事業の実施を決定。また、学生と英語教師の英会話交流会(English time)を実施
- ●県内大学等と連携した「ふるさと発見！大交流会in Iwate2019」の開催(交流会全体参加者970人中本学参加者370人)、県内企業等との連携による低学年次生向け業界研究セミナーの開催(参加学生130人、参加事業所32事業所)

研究

教育と地域貢献を支える研究活動の強化

- ●国や民間企業等の公募情報の教員への情報提供、支援チームによる応募書類作成に係る教員への支援、定年退職教員等の資金獲得環境整備のための規程整備
- ●ＫＤＤＩ(株)及び(株)テムテック研究所との包括的連携協定の締結による企業との共同研究基盤の構築
- ●盛岡市との共同研究の表彰(都市調査研究グランプリ「政策基礎部門優秀賞」)
- ●北いわての地域課題の解決等に向けた岩手県との連携協力協定の締結

地域貢献

地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

- ●地域協働研究(11課題)の実施による地域人材の育成、戦略的研究プロジェクト(6研究)の推進、若手技術者、学生向け高度技術者養成講座(14講座、参加者148人)等の開催
- ●被災地支援活動を行う教職員や学生ボランティア団体を対象に経費の助成や物品等の貸出を実施。岩手県との北いわての地域課題解決に向けた連携協力協定の締結

業務運営等

教育研究活動を支える自主的・自律的な法人運営

- ●効率的かつ効果的な広報活動のための「広報行動計画」を作成。また、研究紹介動画を作成し、テレビ放送と併せたメディアミックスによる広報活動を実施
- ●国連アカデミック・インパクトに加盟し、コミットする原則に関連する教育研究活動等を情報発信。また、教育・研究・大学運営に係るデータをファクトブックに集約し、学内外への情報発信の実施

新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年4月11日、岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画（2019~2028）に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとしました。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」（センター長：研究・地域連携本部長兼務）を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、人材育成などに取り組んでいます。

７月30日には、自治体、ＮＰＯ、企業等から134名の参加の下、「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトシンポジウム」を開催し、地域課題の解決に向けた取組の方向性や先進事例などについて意見交換を行いました。

北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトシンポジウムの様子（3点）

地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るため、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

盛岡市と共同で設置した「盛岡市まちづくり研究所」における共同研究は、令和2年2月に「第10回都市調査研究グランプリ（CR-1グランプリ）」で政策基礎部門優秀賞を受賞しました。

● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向け共同研究に取り組んでいます。平成29年度からは、課題解決プランの策定を支援する「ステージⅠ」（研究期間：単年度）と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージⅡ」（研究期間：２か年度）を設け、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。平成31（令和元）年度は、ステージⅠで20課題、ステージⅡで11課題の研究に取り組みました。

● 市町村の地方創生への取組支援

本学では、平成27年度より、岩手県からの委託を受け、市町村の地方創生の取組を支援しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定・推進や、地方創生を担う市町村職員の政策法務能力向上等の支援に取り組んでいます。支援メニューは、情報提供を行う「サポート３」、有識者会議に教職員を派遣する「サポート２」、総合戦略掲載事業等への指導・助言等を行う「サポート１」があり、市町村からの要望に応じて、平成31（令和元）年度は、サポート1で3市、サポート2で19市町村、サポート3で11市町村を支援しました。

公開講座等各種講座の開催

県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元の一環として、7～8月に、「ここからはじまる、いわての未来 ～自然、科学、人間の調和～」をテーマに、公開講座・滝沢キャンパス講座を開催しました。また、9月には、滝沢市が市民大学として開講している「滝沢市睦（むつみ）大学」と連携した地区講座を開催したほか、宮古市国際交流協会と連携した多文化共生講演会を開催しました。その他、各学部等においても、それぞれの専門性を生かした多様な講座等を開催し、平成31（令和元）年度は、全68講座に3,054人の参加がありました。

滝沢キャンパス講座の様子

また、若手技術者・学生のソフトウェアやものづくりに関する技術力・実践力養成のための高度技術者養成講座を14講座開催し、148人の参加がありました。

Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト2019 in Mitaka」のゲーム部門に応募し、４作品が一次審査を通過。12月に行なわれた最終審査会において、うち２作品が、それぞれ最優秀賞及び優秀賞を受賞しました。

Rubyプログラミング教室の様子

Rubyプログラミングコンテスト
最終審査会の様子

◆戦略的研究プロジェクトの推進

大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す、本学の「顔となる研究プロジェクト」として平成30年７月に創設。本学の特徴を生かした研究を促進するとともに、本県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出などを目指しています。平成31（令和元）年度は、継続中の５つに加え、新たに１つの研究チームを採択し、研究に取り組みました。

◆全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。「震災復興」、「人口減少対策」、「地域産業振興」、「学際分野開拓に関するもの」を優先採択課題とし、平成31（令和元）年度は9件を採択しました。

◆外部研究資金の獲得状況

令和2年度科学研究費への応募は116件（対前年度10件増）、採択は25件（同9件増）でした。また、平成31（令和元）年度の共同研究、受託研究及び奨学寄附金の獲得件数は合計62件（同21件減）、受入金額は101,623千円（同24,861千円減）でした。

◆看護実践研究センターの取組

県民のQOLと岩手の看護の質の向上に寄与するため、自律した看護職の継続教育等を実施。平成31（令和元）年度は、「岩手県新人看護職員研修」に45施設から152名、各教員の専門性を活かした「専門職研修事業」には13種類に726名の参加がありました。また、県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」を５施設で実施しました。特に、岩手県から受託実施している新人看護職員研修は平成23年度から９年目を迎え、これまでの累積参加者数は県内の現職看護職員の約１割に達しています。

岩手県新人看護職員研修（公開講座）の様子

看護学部

筋肉内注射の副作用として発生する硬結（こうけつ）を予防するための看護ケア方法の確立
―患者の生活の質の向上をめざして―

教授 高橋有里（理論看護学・看護技術学）

医療における看護師の役割

看護師は、医師の指示のもと注射を実施する機会があります。しかし、看護師は医師の代わりではありません。『看護の独自性』は、「病気を見るのではなく病に罹患したその人を見ること」「健康の回復や維持増進のために生活を整えること」「対象者の自然治癒力を高め回復を促進すること」などと言われます。人をみる、生活している人の体験を重視しているのです。

注射の副作用としての硬結について

人をみる、生活している人の体験を重視する看護において、注射を行うことは、確実に薬を投与するだけでなく、その人の反応をよく理解しなければいけません。私は、筋肉内注射の実施機会が多い精神科看護師から、「注射部位が硬くなる副作用（硬結）により患者が痛みや違和感や生活しづらさを感じているので何とかしたい」との相談を受けました。注射を受けた人の反応を重視した看護師の視点です。実態調査したところ、7割以上の看護師が硬結を経験し患者が困っていることを自覚していました。そして、様々な自己流ケアを実施するものの硬結が改善せず苦悩していることがわかりました（図1）。そこで、硬結を予防する看護ケアを確立する研究に取り組みました。

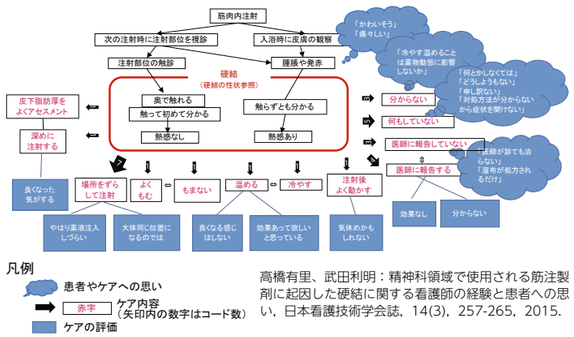
硬結を予防する看護ケア方法の確立

まず、硬結が発生しやすい薬剤や硬結の特徴、患者の自覚などを調査した後、発生頻度が高かった薬剤を実験動物に筋肉内注射して筋組織を観察し、硬結部の組織がどのような状態なのかを明らかにしました。その結果、硬結は、病状の安定を図るため4週間に1回定期的に注射される油性の薬剤で特に多く発生していたこと、注射された薬剤は筋組織内で油滴を形成して留まること、その油滴が大きいまま残ると硬結として皮膚上から硬く触れることが分かりました。以上を踏まえ、硬結予防の看護ケア方法を検討しました。注射された後の薬の油滴を細かくする方法として数種類検討したところ、筋肉を意識的に動かすことが最も細かい油滴になりかつ血中濃度から薬理作用に影響のないことがわかりました。つまり、油性の薬剤の筋肉内注射後に発生する硬結は、注射後に投与した筋肉を意識的に動かすようにする（図2）と予防できる可能性が示唆されました。このケアを実際に患者に試行し、殿部（でんぶ）の中殿筋（ちゅうでんきん）に注射した後、中殿筋が動くように下肢（かし）の外転（がいてん）運動のケアをすることで、硬結発生を抑えたり、重症化を防いだとの成果を得られました（図3）。

本研究成果の今後の展望

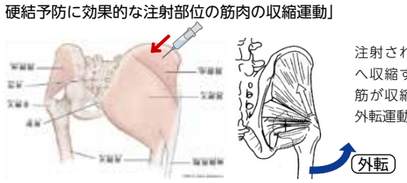
現在、別の薬剤についても同様の看護ケア方法で効果が得られるか継続して研究しています。現在取り扱っている薬剤についても効果が得られれば、油性薬剤についてはこの看護ケア方法により筋肉内注射の副作用の硬結を予防することができると言えると考えます。看護師による独自のケアにより、患者の苦痛や不自由を軽減し生活の質を高め、病気を抱えながらもその人らしく安楽に安心して暮らしていただくことに寄与できると考えています。

図1「精神科看護師が硬結に対し行っていたケアとその評価」



高橋有里、武田利明：精神科領域で使用される筋注製剤に起因した硬結に関する看護師の経験と患者への思い，日本看護技術学会誌，14(3)，257-265，2015.

図2「精神科の筋肉内注射で選択される部位と、実験の結果示唆された硬結予防に効果的な注射部位の筋肉の収縮運動」



注射された中殿筋は⇒の方向へ収縮する。したがって中殿筋が収縮する運動、股関節の外転運動が有効と示唆された。

図3「硬結予防の看護ケア方法としての中殿筋の収縮運動」

社会福祉学部

海外研修での学びと地域の子ども支援をつなぐ試み
―能動的学習プログラムとソーシャル・アクション―

准教授 櫻　幸恵（子ども家庭福祉学）

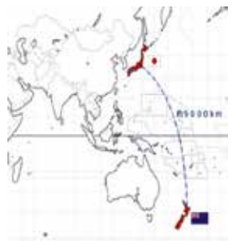
子どもの最善の利益とソーシャル・アクション

貧困や虐待など、近年子どもが抱える困難は複雑・多様・深刻化しています。子どもの最善の利益を護り安寧な暮らしを保障するには、新たな課題に向き合い、地域の関係者が共に考え、ニーズに即した支援枠組みを創る社会活動（ソーシャル・アクション）が必要です。こうした実践力を培うため、本学部では「現実を知り、考え、行動する一連の過程を通して学ぶ」Problem Based learningを基盤に、子ども家庭福祉に沿った研修プログラムを構築し、2017年度から参加学生とともにプログラムの実践試行をしています。

ニュージーランドでの学びを地域の子ども支援に活かす
―学生企画「Kiwi食堂」の実践

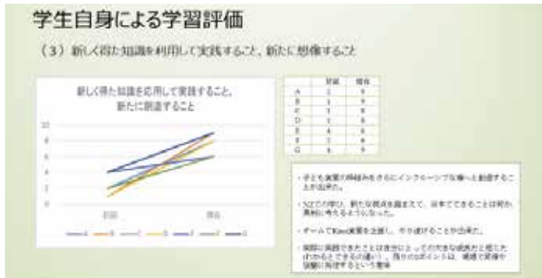
研修プログラムでは、ニュージーランド（NZ）での現地研修と並行して、岩手での地域実践をNPO法人等と協働で行い、多層で能動的な学びを深め、子どもの福祉課題解決に向けた地域企画につなげています。

2019年3月のNZ研修には学生7名が自分でテーマを設定して参加、子ども主体の福祉サービスや社会的包摂、ファミリー・ファースト社会に驚きの連続でした。また、学生が企画してNZの人々にファンド・レイジング（自立的資金獲得）を行い、帰国後の2019年7月には、それを原資に社会的包摂をテーマに「kiwi食堂（子ども食堂）」を企画し、NPO法人「インクルいわて」や「放課後等デイサービス飛行船」の皆さんと協働開催しました。「kiwi食堂」では、ひとり親家庭のお子さんや障がいのあるお子さんが共に遊び、デザートをつくり、食事をして笑顔の中で過ごしました。



能動的学習プログラムの成果と社会的活動

ＩＣＥによる学習評価では、（1）新しい知識・概念、語彙や定義の獲得、（2）学んだことと既に知っている概念や概念同士のつながりを捉える、（3）新しく得た知識を利用して実践する・新たに創造する、の3点について、研修前後で比較したところ、いずれの学生もスケールポイント（10点満点）が研修前より大幅に上がっており、特に（3）の新たな実践や創造については、表の通り明確な差がみられました。新たな社会活動を起こす力の獲得について、本学習プログラムは一定の効果があるのではないかと考えています。現在、コロナ禍で研修自体が実施不能な状況ですが、終息後は引き続き実践試行を重ね、プログラム効果を検証していく予定です。効果が認められれば、グローバルな視野を持ち、地域福祉に貢献できる福祉人材育成に貢献できるのではないかと期待しています。



ソフトウェア情報学部

東日本大震災からの復興加速化と「見える化」技術 ―3D計測と3Dモデル化による問題解決―

教授 土井　章男(情報科学)

はじめに

「見える化」とは状態の可視化だけではなく、問題解決まで見据えて意思決定を支援することです。科学分野において膨大な数値データを「可視化」する取り組みが実施されており、複雑な事象や行動履歴等を分かり易く示すことに役立って来ました。今後は「可視化」だけではなく、可視化結果を活用して効率的な意思決定や問題解決が期待されています。目的に合致した「見える化」を行うことで、早期に状態把握、問題解決、再発防止が実現でき、その応用範囲は広く、様々な社会問題への適用が可能であると考えられます。

2011年に発生した東日本大震災において、復興に関する課題は未だ山積みです。福島原子力発電所では廃炉・汚染水対策が緊急に解決すべき課題となっています。岩手県のさんりく沿岸の市街地(宮古市、陸前高田市、大槌町等)では宅地造成や道路が整備されましたが、今後まちづくりや観光地としての復興が課題となっています。そこで、我々は東日本大震災からの復興加速化を目的とし、これらの課題に関して「見える化」技術を用いた問題解決の支援を行なっており、最近行ったプロジェクトの概要を紹介します。

宮古市三王岩と三陸沿岸の観光復興

三陸ジオパークの見所の一つである三王岩は、白亜紀(1億年頃前頃)の海に堆積してできた砂岩や礫岩(宮古層群)から構成されています。この三王岩を観光地としてPRするために、ドローンから写真撮影を行い、生成された膨大な3D点群データから3Dモデル化を行いました。本3Dモデルはインターネットでの情報発信、3Dプリンタで好きなサイズ・色のミニチュア作成、仮想現実感表示(Virtual Reality(VR))などが出来ます(図1)。

宮古市市道末広線の電柱地中化

まちづくりにおいて、まちの景観は非常に重要です。宮古市の市道末広町線を整備していくため、市道末広町線整備基本計画策定協議会が設置されましたが、検討するメンバは共通イメージを持ちながら、計画策定することが必要でした。そのため、レーザスキャナを使用して道路沿いの市街地を計測し、整備される道路の様々なパターンがCGにより作成されました。さらに電柱の地中化を検討するため、電柱を削除した点群データを作成し、複数の計画案のアニメーションを製作しました。これらのアニメーションは商店街にてビデオ展示を行い、住民への説明や意見収集時に使用されました(図2)。

盛岡市文化財公園

盛岡市には国登録記念物の文化財庭園が2件(「旧南部氏別邸庭園」、「南昌荘庭園」)、市条例指定保護庭園6件が所在しています。しかしながら、盛岡ではその保護措置と魅力の発信が十分なされていません。そこで、盛岡市の文化財庭園に対して、精密な記録保存のための3Dモデル化を行い、その詳細図や3Dデジタルデータを活用して魅力発信を試みています(図3)。

おわりに

岩手県各地には全国的に知られていない様々な観光資源が存在しています。これらの資源の存在や素晴らしさを伝えることで、観光に訪れる人を増加させられるのではないかと考えています。そこで、その地域を熟知する住民が勧める観光資源を3Dデータ化し、VRゴーグルやプロジェクタを用いて観光地を疑似体験できるデジタルコンテンツを制作しています。本年度は西和賀町の河川をフィールドとした3Dマップを制作中です。

図1：宮古市田老地区三王岩の仮想現実感表示

図2：末広町市道末広線の無電柱化した開発イメージ

図3：南昌荘室内の再現とVRイメージ

総合政策学部

学生の参加による地域づくり研究活動の推進

教授 吉野英岐(地域社会学)

総合政策学部では行政、企業、地域の課題解決を目指す地域協働研究に積極的に取り組んでいます。そのなかで、私自身が令和元年度に担当した2つの研究課題を紹介します。1つは「農作物の生産を通した高齢者の居場所づくりと地域活性化」、もう1つは「学生力を生かした6次産業化と地域活性化の展開手法の研究」です。ともに岩手県釜石市をフィールドにしたプロジェクトで、総合政策学部の学生が積極的に研究プロジェクトに参加し、地域住民や関係者と交流し、アイデアを出し、成果を発表しました。

●農業生産活動を通じた高齢者の居場所づくり

釜石市唐丹地区では、被災者を含む高齢者の居場所づくりや生きがいづくりと農業生産活動の維持が課題になっていました。本研究では唐丹公民館と連携して、高齢者による農業生産活動に大学生が参加し、交流することで、高齢者の活動意欲ややりがいを高めていくことを企画しました。

2019年5月26日(日)に本学の学生9名と教員1名で田植え作業に参加しました。当日は好天の下、地元の高齢者が20名程度参加し、学生と交流しながら作業を楽しみました。10月5日(土)には、学生7名と教員1名で稲刈り作業に参加しました。ほとんどの学生にとっては田植え作業も、稲刈り作業も初めての体験でしたが、地元の方々と交流しながら、楽しく作業を行うことができました。地元の方々にとっても、大学生がともに作業をすることで、やりがいや協働意識を高める効果がありました。

収穫した米は別の圃場で栽培した野菜とともに、地域のイベントに出品し、一部は販売を行うことで地域内循環につなげていくことができました。

田植え作業

稲刈り作業

●特産品「甲子柿」の6次産業化と地域活性化

釜石市甲子地区では特産品である甲子柿の生産と販売の拡大が目指されてきました。本研究では釜石市役所農林課と連携して学生を交えて新商品の開発や販路開拓を行い、甲子柿の魅力を創造し、需要を喚起することによる地域経済の活性化を目指しました。

2019年7月29日(月)に県立大学で甲子柿の加工品づくりのワークショップを実施しました。学生13名が参加し、加工品についてアイデア出しを行いました。次いで9月2日(月)～3日(火)に学生12名および教員が現地を訪問し、実際に加工品の試作を行いました。甲子柿を使ったカクテルおよびノンアルコールカクテル、スムージーを試作し、甲子柿のPR用イラスト入り冊子も作成しました。また、10月26日(土)には学生10名と教員が参加して、甲子柿の収穫体験ツアーを実施し、2軒の生産者で収穫体験とみがき作業を体験しました。学生にとって収穫体験も初めてでしたが、楽しく作業ができました。

2020年3月6日(金)には、甲子柿の里生産組合の技術講習会の折に、これまでの研究成果の報告を行い、加工品の紹介、収穫体験の成果、SNS使った情報発信の可能性を学生が報告しました。

●学生力を高める

研究活動は教員が中心になって行う領域ですが、学生が積極的に研究活動に参加することで、学生自身が地域を知り、地域から学び、学生力を高めていく貴重な機会になっています。さらに地域と継続的に関係を維持することで、現場・学生・教員による研究成果の共有や研究を通じたインターンシップの推進も期待できます。

今後も大学生の新しい発想やSNSの活用を生かして、さまざまな分野で、本学部ならではの地域貢献につなげていくことができると考えています。

収穫体験

みがき作業体験

収穫直後の甲子柿

スムージー

盛岡短期大学部

折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究

教授 松本　博明(日本近代文学・民俗学)

日本近代文学資料・草稿研究

昨今日本近代文学研究の分野においては、作家の周辺資料を丹念に収集し解読、作品の読みを再度検討する手法や、作品の生成過程を子細に分析して、作品そのものを多角的にとらえる草稿研究が成果を上げています。こうした中、筆者は、資料の解読、分析、評価を通じて同時代文学を見通すという研究手法で研究を続けています。

折口信夫旧蔵資料

古典文学研究だけではなく、同時代文学にも深い理解と発言力を持ち、歌人、詩人、小説家としても数々の作品を後世に残した折口信夫(釈迢空)には、おびただしい質・量の未解読・未公開旧蔵資料が残されています(國學院大學蔵)。この資料について、科学研究費の補助(基盤C=26370258【2014-16】　基盤C=18K00342【2018-20】)を受けて、整理解読分析を行っています。

折口が宗教学、民俗学、古典文学にも深い造詣と研究業績を持っていたこと、没後彼の研究や作品が日本の文学研究に大きな影響力を持ち続けたことを考えますと、旧蔵資料の全容解明と解読、分析、評価は、日本文学研究分野に対し極めて有益な情報を提供するだけでなく、当該資料を他分野を巻き込んだ研究の遡上に載せることになります。

研究の進展と成果

旧蔵資料は以下のように分類し、調査研究が行われ成果を出しています。

(ⅰ)自筆原稿資料　230点余りの自筆原稿、草稿資料です。外形的な整理、内容に関しての分類を行い、基本データベースが完成しました。これによって折口信夫(釈迢空)の草稿研究が格段に進みます。

(ⅱ)12000通を超える折口信夫受取書簡　全体の読み込みが終了し、書簡の差出人、発信年月日、書簡・はがきの別など外形的な情報については基本データとして整理され、データベースの骨格が完成しました。今後細部の改良、比定を経て公開に向けて準備が始められます。川端康成、谷崎潤一郎、室生犀星、堀辰雄などの同時代文学者からの未公開受取書簡は、同時代文学研究の発展に大いに寄与します。

(ⅲ)自筆手帖・小型ノート　釈迢空の作品、研究論文の生成過程、民俗調査や旅の実態を探る重要な手控えで、300冊ほど残されています。全容の把握と文字起こしを終え、今年度中にデジタル化が完了する予定です。

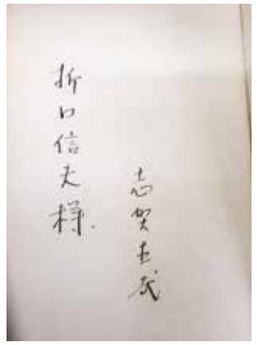
(1)折口信夫自筆手記「郷土研究会調査」

(ⅳ)年譜資料　年譜事項の分析、改訂に関わる辞令、給与明細、家計簿などの生活関連資料で各資料の整理は完了、今後の分析を待ちます。

(ⅴ)折口文庫(折口信夫旧蔵図書)　折口信夫の旧蔵書籍の一部。同時代の文学作家からの献呈署名入り図書、折口自身の加筆入り図書など極めて貴重な資料の一群です。6000冊を超える資料です。データベースが完成し今後比定確認の後、公開を待ちます。

この他、民俗学関連の資料が多数現存します。民俗調査ノート、調査収集資料、教科書などで、今後分析を行っていきます。

(2)折口信夫が主催した琉球古典芸能大会のプログラム。(昭和11年5月30日−31日開催)。折口信夫自筆の校正が入っている。



(3)折口文庫(折口信夫旧蔵図書)
志賀直哉『暗夜行路』献呈本

宮古短期大学部

夏目漱石の『倫敦塔』に描かれる小説と絵画の融合

講師 大前 義幸(英文学・比較文学)

漱石の留学

1900年に当時の文部省から一人の英語教師が英語教育の研究という命を受け、イギリスのロンドンへ留学をした。熊本で英語教師をしていた夏目漱石(1867-1916、図1)は、まだ幼子を抱えていたこともあり再三の任命を断ったが、文部省からの強い要請で、単身、横浜港からロンドンへ向けて出港しました。そして、ロンドンへ到着すると、3日後にはロンドン塔へ観光に出掛けており、自身がロンドン塔(図2)を見て、感じたことを『倫敦塔』と題してエッセイを発表しました。

(図1)

(図2)

『倫敦塔』に描かれる二人の王子

『倫敦塔』の中に描かれている、「寝台の端に二人の小児が見えて来た」とは、シェイクスピアの『リチャード三世』にも登場するエドワード王子のことである。

ロンドン塔は、古来、要塞、監獄、宮殿という3つの役割を果たしてきましたが、シェイクスピアの『リチャード三世』において、「ジュリアス・シーザーが築いた不吉な塔」と名付けていることからも処刑の場として、圧倒的な存在感を発揮していたのです。

レディ・ジェーン・グレイの処刑

そして、もう一つ忘れてはいけないことは、レディ・ジェーン・グレイの処刑です。漱石の『倫敦塔』の中で、「模様だが文字だが分からない中に、正しき画で、小く「ジェーン」と書いてある。余は覚えずその前に立留まった。英国の歴史を読んだものでジェーン・グレーの名を知らぬ者はあるまい」と書かれていることからも、彼女の処刑について、漱石も触れています。なぜ、漱石が、彼女のことについて触れることができるのか。彼女の生涯について知ることができたのかは、詳しくは分かりませんが、おそらく、当時、漱石はポール・ドラ・ロッシュの2枚の絵画(図3.4)のレプリカを見ていたのではないでしょうか。

(図3)

(図4)

歴史と絵画の融合

漱石がロンドンへ来る前にパリを訪れていたことは、あまり有名ではありませんが、滞在期間の短さからもパリでこの作品を見ることは難しく、おそらくロンドンのナショナルギャラリーで鑑賞した経験が、この作品に大きな影響を与えたと思います。漱石の小説は絵画が大きく影響していることは、あまり知られていません。漱石の小説を絵画と歴史を交えながら読んでいくと、新しい解釈や発見ができ、夏目漱石の作品解釈に新たな一説を加えることができると思います。

平成31（令和元）年度教育の活動状況

新たな基盤教育プログラムの策定による教育内容の充実

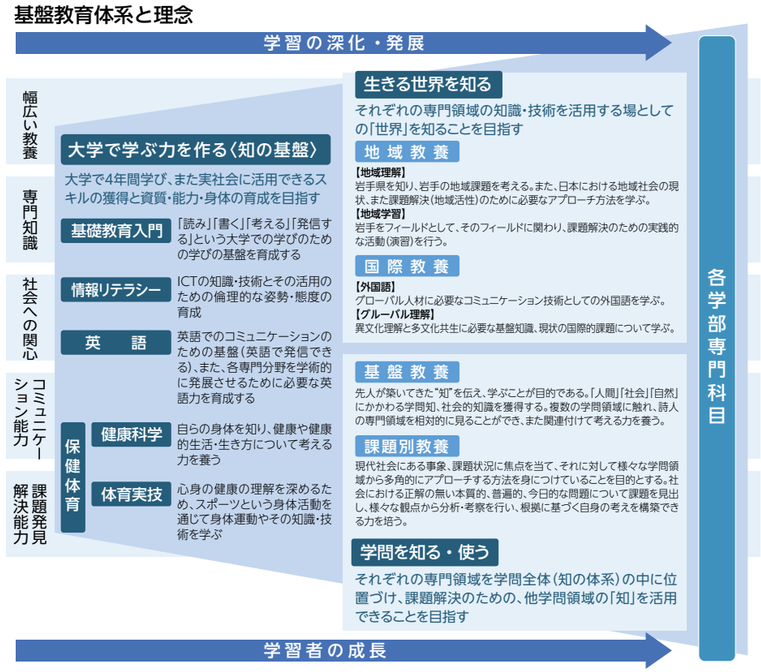
大学の学びを支える基盤教育とそれぞれの専門を発展させる教養科目

岩手県立大学高等教育推進センター高等教育企画部では、令和２年度から施行する基盤教育カリキュラムを策定しました。

新たな基盤教育カリキュラム策定にあたり、学生が基盤教育のもつ目的を明確に意識でき、専門教育での関わり（基盤となる、発展させる）を認識できることを重視しました。（右図参照）

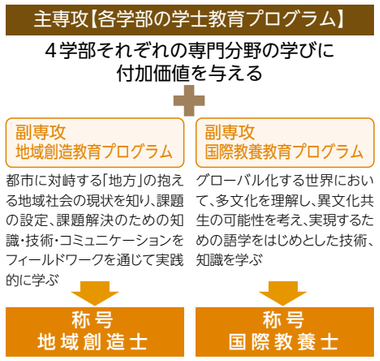
その体系は、大学での学修活動の基盤を支える力を鍛える「大学で学ぶ力を作る」、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を身に付ける「生きる世界を知る」、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する「学問を知る・使う」、これらの３つの区分で構成されています。

基盤教育体系と理念



新たな副専攻「国際教養教育プログラム」

主専攻の学びを
更に広げる・深める副専攻



副専攻とは、各学部の専門性を生かしながら、異なった分野の知識を学ぶ、学部の枠を越えた学修の制度です。

新たな基盤教育カリキュラムの策定に伴い、平成28年度に開設した副専攻「いわて創造教育プログラム」を科目の配置や必要単位数の見直しにより内容を拡充し「地域創造教育プログラム」に一新しました。また新たに、副専攻「国際教養教育プログラム」を開設しました。それぞれの修了要件を満たすことで「地域創造士」「国際教養士」の称号を得ることができます。

副専攻「国際教養教育プログラム」は、グローバル化する世界において、活躍する人材の育成を目指すプログラムです。さらにグローバル化していく世界を多面的に理解し、その世界で行動できる主体としての力を育成することを目的としています。そのための知識、技術としての語学力の獲得を目指します。

新たな基盤教育カリキュラム、そして新たな副専攻を令和２年度入学生に周知するため、岩手県立大学高等教育推進センター高等教育企画部では、「基盤教育カリキュラム履修案内」を作成しました（右写真参照）。この履修案内を令和２年度入学生全員に配布することで、カリキュラム構造を明示しています。この他、広報誌や入学案内においても、新たな基盤教育カリキュラムを紹介し、学外に向けても周知を行っています。

海外派遣プログラムの実施

本学では、中国・韓国・アメリカ合衆国などの大学と国際交流協定を結び、海外派遣や特別聴講生の受け入れなどの国際交流を行っています。令和元年度は新しく協定締結したチェコの大学を含め、国際交流協定機関は合計13カ国（地域）20機関となりました。それぞれ、研究者との共同研究や学生交流を行っています。

また、語学力の向上、異文化体験による国際感覚の醸成と学修意欲の向上、海外大学との交流促進を目的とし、様々な「海外留学プログラム」を実施しています。令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、やむなく２件のプログラムが中止となりましたが、延べ56名の学生を海外に送り出しました。

さらに、学生の海外派遣促進に向けた検討を行い、経済的困難を有する学生に対する奨励金給付事業を令和２年度から実施することを決定しました。

プログラム名称	日程		派遣先		
短期海外研修　中国コース	夏季	２週間程度	中国		中国伝媒大学
短期海外研修　韓国コース		３週間程度	韓国		慶熙大学校
短期海外研修　スペインコース	春季	２～３週間程度	スペイン		アルカラ大学
【ソフトウェア情報学研究科】国際研究交流	夏季	２週間程度	アメリカ		イースタンワシントン大学
応用英語Ⅱ	春季	３週間程度	アメリカ		オハイオ大学付属英語学校
【看護学部】国際看護論演習	春季	２週間程度	アメリカ		ワシントン州立大学
【社会福祉学部】コミュニティ福祉サービス実習	夏季	１週間程度	韓国		福祉施設等
【社会福祉学部】ニュージーランド研修	春季	１週間程度	ニュージーランド		児童福祉施設、学校等
【総合政策学部】カセサート大学派遣	春季	10日間程度	タイ		カセサート大学
【盛岡短期大学部】国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ　韓国コース	夏季	３週間程度	韓国		慶熙大学校
【盛岡短期大学部】国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ　米国コース	夏季	２週間程度	アメリカ		オハイオ大学付属英語学校
CIEE主催　国際ボランティアプログラム	年間を通した多種多様なプログラムから学生が選択				
官民協働海外留学支援制度 トビタテ!留学JAPAN	文部科学省による、学生が自ら定めた目的に基づき立案した実践活動を含む留学に対する支援制度				

キャンパスのグローバル化

本学では、学内での学生生活の中で多文化理解を深めるため、様々な国際交流イベントを展開しています。令和元年度は、フランスでのボランティアやアメリカに留学した日本人学生の体験談、中国人留学生から見た日本の印象など、学生を講師とした多文化理解講演会、また、留学生との交流を目的としたバスツアーを実施し、多くの学生が積極的に参加しました。

学び合い文化創造事業の展開

本学では、学内で異なる学年や異なる学部の学生同士が主体的に“学び合う”文化を醸成するための学修の場の整備に取り組んでいます。令和元年度は、英会話交流事業「English Time」やライブラリー・アテンダントが企画したトークイベントを開催しました。

※ライブラリー・アテンダント（LA）＝図書館の利用案内、企画展示などを行う学生スタッフ

国際交流バスツアー　スノートレッキング体験

LA企画トークイベント　「日本でもできる語学の勉強」

英会話交流事業「English Time」

令和２年度入学及び平成31（令和元）年度卒業・就職の状況

令和２年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和２年度入学者選抜においては、一般入試、AO入試、推薦入試、震災特別推薦入試、社会人入試などを実施し、実質倍率は4大学部で3.0倍（昨年度0.8ポイント減）、大学院で1.0倍（同0.1ポイント減）、盛岡短期大学部で1.4倍（同0.2ポイント減）、宮古短期大学部で1.1倍（同0.2ポイント減）となっています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学志願者の確保に努めるとともに、入試改善に取り組んでいます。

令和２年度入学者選抜結果

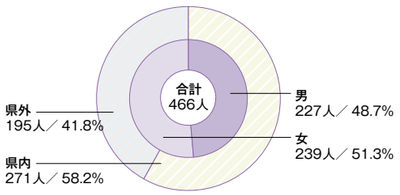
（単位：人、倍）

学　部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	90	480	305	97	3.1
社会福祉学部	90	381	296	105	2.8
社会福祉学科	50	196	147	59	2.5
人間福祉学科	40	185	149	46	3.2
ソフトウェア情報学部	160	650	466	172	2.7
総合政策学部	100	577	410	113	3.6
計	**440**	**2,088**	**1,477**	**487**	**3.0**
学　部（編入学）	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学部	10	3	3	1	3.0
社会福祉学部	10	19	19	9	2.1
社会福祉学科	5	9	9	4	2.3
人間福祉学科	5	10	10	5	2.0
ソフトウェア情報学部	10	21	20	15	1.3
総合政策学部	10	30	30	12	2.5
計	**40**	**73**	**72**	**37**	**1.9**
大学院	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学研究科看護学専攻	13	9	9	9	1.0
社会福祉学研究科社会福祉学専攻	18	11	10	7	1.4
ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報学専攻	50	43	42	42	1.0
総合政策研究科総合政策専攻	13	6	5	5	1.0
計	**94**	**69**	**66**	**63**	**1.0**
盛岡短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
生活科学科	50	130	123	88	1.4
生活デザイン専攻	25	64	63	41	1.5
食物栄養学専攻	25	66	60	47	1.3
国際文化学科	50	118	115	86	1.3
計	**100**	**248**	**238**	**174**	**1.4**
宮古短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
経営情報学科	**100**	**162**	**156**	**145**	**1.1**

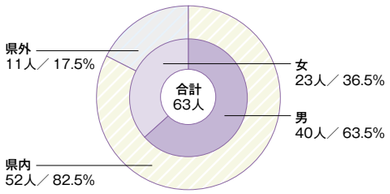
（注）実質倍率＝受験者数÷合格者数

令和２年度入学者の内訳

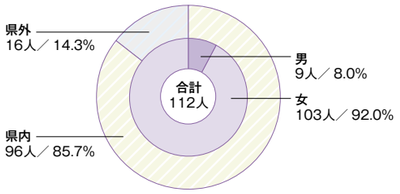
【学部】



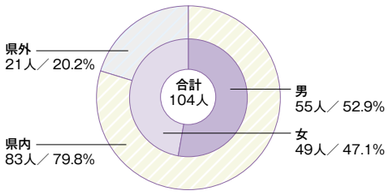
【大学院】



【盛岡短期大学部】



【宮古短期大学部】



高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

オープンキャンパスのほか、大学での学修内容に触れる機会として、高等学校への出張講義、大学でのサマーセミナー、ウインターセッション、高校生及び保護者を対象とした入試相談会を開催するとともに、随時各高等学校等からの大学見学を受け付け、大学の説明と施設の見学を実施しています。

これら大学見学や相談会などの際には、学生で構成する学生広報団体（キャンパス・アテンダント）が自身の体験談の発表やキャンパスガイドを行い、実際の学生の声が聞けるということで参加者から好評を得ています。

また、高等学校との連携を高めるため、岩手県高等学校長協会との懇談会、高大接続委員会、進路指導を担当する高等学校教員を対象とした高校教員大学見学会を開催し、本学の情報を提供するとともに、本学に対する高等学校からの意見や要望の聴取も行っています。

そのほか、県内の高校生を対象とした小論文コンクール等、高校生の文章能力向上等を目的とした取組も実施しています。

高校教員大学見学会

本学では、高等学校教員を対象とした説明会・大学見学会を開催しています。高校生を実際に指導している教員の方々に、本学の魅力・特徴等を理解してもらい、進路指導に役立ててもらうことが目的です。

本学や各学部の概要説明、入学者選抜についての説明を行い、キャンパス・アテンダントによる体験談発表とキャンパス・ガイドを実施しており、「具体的な内容でとても参考になる」など参加者から好評を得ています。

高校教員大学見学会の様子

いわて高校生小論文コンクール

本学の入学試験では、多くの学部・入試区分で小論文を用いています。この小論文の作成を通して、県内の高校生に問題や課題を発見し、理解力、論理的思考、表現力、着眼の独創性などを身に付けてもらうことを目的に、平成22年度から「いわて高校生小論文コンクール」を実施しています。

毎年度のテーマに沿った小論文を募集し、その中から最優秀賞、優秀賞、佳作、学校賞を選定するとともに、その結果や作品をホームページで公表しています。

平成31（令和元）年度のテーマは「水」で、294編の応募がありました。

コンクールのポスター

平成31（令和元）年度の卒業者及び就職の状況

平成31（令和元）年度の卒業者は、4大学部459人、大学院修了者54人、盛岡短期大学部114人、宮古短期大学部97人で計724人でした。

卒業者の進路は、4大学部は、就職内定者397人（うち県内186人、県外211人）、大学院進学42人、その他14人。盛岡短期大学部は、就職内定者66人（うち県内44人、県外22人）、進学者35人、その他7人。宮古短期大学部は、就職内定者64人（うち県内43人、県外21人）、進学者28人、その他2人でした。

就職内定率は、4大学部98.5％、盛岡短期大学部91.7％、宮古短期大学部95.5％でした。

平成31（令和元）年度の卒業者の状況

令和2年3月卒業生における数値（単位：人）

学部	看護学部	社会福祉学部	ソフトウェア情報学部	総合政策学部	合計
卒業者	93	101	160	105	459
就職希望者	92（98.9）	90（89.1）	119（74.4）	102（97.1）	403(87.8)
就職内定者（うち県内）	92（40）	90（55）	117（31）	98（60）	397(186)
就職内定率	100%	100%	98.3%	96.1%	98.5%
進学者	0	4	36	2	42
その他	1	7	5	1	14

大学院修了者	看護学研究科		社会福祉学研究科		ソフトウェア情報学研究科		総合政策研究科		合計
	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
	10	4	4	0	33	2	1	0	54

短大	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
卒業者	114	97
就職希望者	72（63.2）	67（69.1）
就職内定者（うち県内）	66（44）	64（43）
就職内定率	91.7%	95.5%
進学者	35	28
その他	7	2

（注）「就職希望者」欄の（　）内の数字は、卒業者に対する就職希望者の割合
（注）「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和２年３月31日現在の内容を以て決定
（注）その他は、家事手伝い、進学・留学準備者、就業準備者等

就業力育成の取組

本学では、インターンシップに参加する学生の支援・指導に力を入れています。

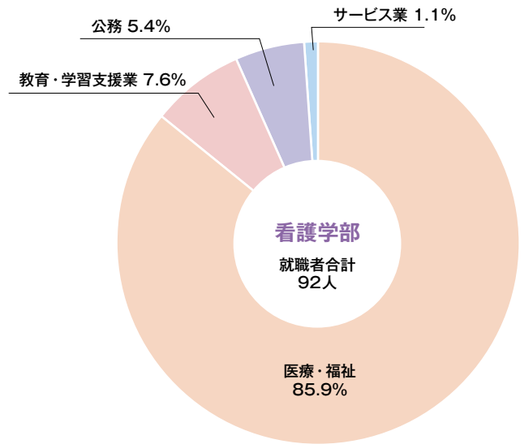
東北地域大学間連携インターンシップのポータルサイト「インターンシップin東北」を平成27年度から本学が主体となって運営しており、令和元年度は「インターンシップin東北」に183事業所の多種多様なインターンシッププログラムが掲載され、滝沢、宮古キャンパス合計で延べ168人の学生が就業体験に参加しました。

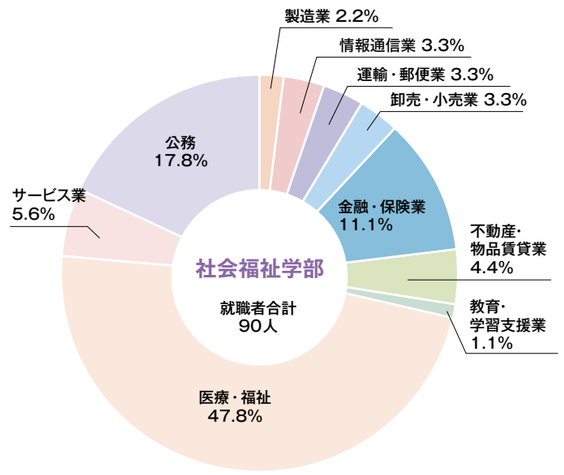
参加前には、社会で必要なビジネスマナーの研修や心構えに関する事前学習を実施し、参加後は、さらに学びを深めることを目的に、受入事業所の担当者を招き交流しながらインターンシップの振返りを行う「インターンシップ事後学習・交流会」も実施しており、事前～事後の支援にも力を入れています。

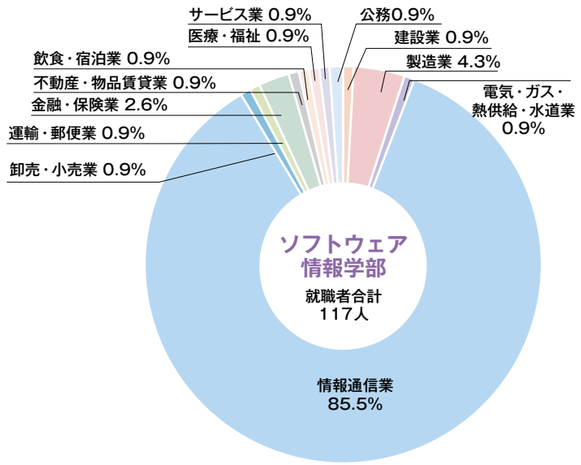
また、令和２年度からは、岩手県内の事業所で就業体験を行う地域学習科目「キャリア地域学習」を全学部の低学年次生向けに開講しました。

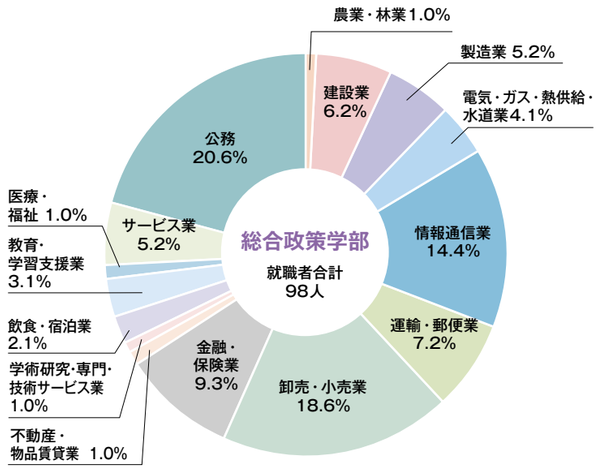
企業と学生のインターンシップ事後学習・交流会の様子（令和元年10月16日）

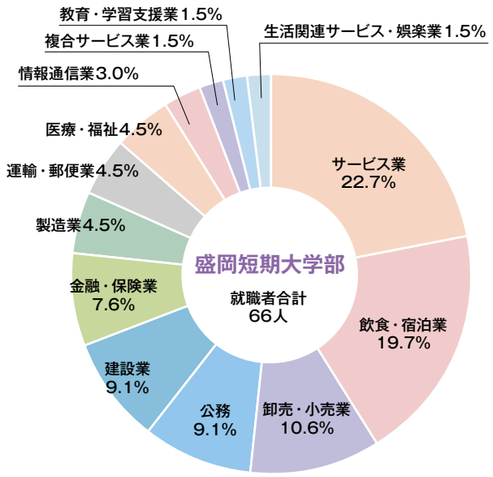
平成31（令和元）年度卒業生の主な就職内定先

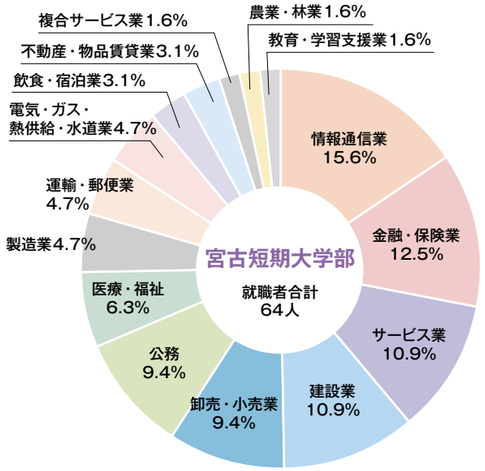












平成31（令和元）年度財務状況

多様な資金の獲得と効果的な大学運営

平成31（令和元）年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

岩手県立大学の財務状況（令和2年3月31日現在）

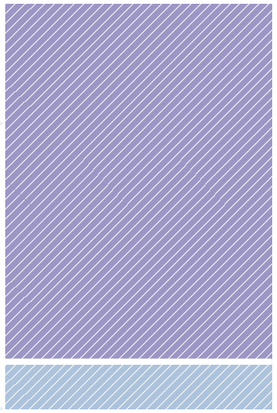
資　産

Ⅰ 固定資産
20,515,525千円

岩手県立大学の建物や土地、機械装置、車両、図書などの資産
（内訳）
有形固定資産 20,347,974千円
無形固定資産 80,312千円
投資その他の資産 87,239千円

Ⅱ 流動資産
3,072,629千円

預金や重油等、貯蔵品などの資産



資産合計
23,588,154千円

負債・純資産

負債
3,197,766千円

資産見返負債※、長期未払金や未払金
（内訳）
固定負債 2,283,938千円
流動負債 913,828千円

純資産
20,390,389千円

資本金や教育研究・施設環境充実のための積立金などの資本
（内訳）
資本金 32,679,099千円
資本剰余金△14,452,494千円
利益剰余金 2,163,784千円

負債・純資産合計
23,588,154千円

※資産見返負債とは、法人が固定資産を継承・取得した場合に、当該資産の見返りとして同額を負債に計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取崩して収益化する、減価償却による損益計算への影響を与えないための公立大学法人特有の処理です。（注）端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

平成31（令和元）年度の収支状況〈収入〉

岩手県立大学における収入の64.4%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等から資産見返負債戻入を除いた自主財源の割合は33.7%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
運営費交付金	3,802,993	64.4	県から運営費として交付されたもの
授業料	1,213,456	20.6	大学独自の収入（自主財源）
入学金及び検定料	232,534	3.9	
産学連携等研究収益	73,855	1.3	企業や団体から委託された研究及び事業における収入
補助金等	184,925	3.1	施設等整備事業費補助金、寄付金等
寄付金	19,540	0.3	
資産見返負債戻入	113,153	1.9	
その他	98,046	1.7	
目的積立金取崩	162,774	2.8	
合計（A）	5,901,276		

※資産見返負債戻入とは、資産見返負債から資産減価償却額の見合いを収益化したものです。

平成31（令和元）年度の収支状況〈支出〉

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ31.3%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
教育経費	1,109,520	19.9	大学教育及び研究等に係る経費
研究経費	507,878	9.1	
教育研究支援経費	129,101	2.3	
産学連携等研究経費	72,557	1.3	企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費
役員人件費	11,107	0.2	役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費
教員人件費	2,590,245	46.3	
職員人件費	822,078	14.7	
一般管理費等	348,424	6.2	光熱水費、修繕費、消耗品費等
合計（B）	5,590,910		

平成31（令和元）年度収支（A-B）310,366千円

学生及び教員一人あたりにかかる経費［平成31（令和元）年度］

平成31（令和元）年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計55億9,091万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部を含めた、学生一人あたりの教育経費は約98万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約240万円です。

大学教育及び研究等にかかる経費

総計
4,336,744千円

教育経費 …… 1,109,520千円
研究経費 …… 507,878千円
教育研究支援経費 …… 129,101千円
教員人件費 …… 2,590,245千円

学生一人あたりの教育経費

教育経費総計
2,469,191千円

内訳
教育経費…… 1,109,520千円
教育研究支援経費×1/2…… 64,551千円
教員人件費×1/2※2…… 1,295,120千円

÷

→

内訳
岩手県立大学（大学院含む）……2,110人
盛岡短期大学部 ……217人
宮古短期大学部 ……205人

※2 教員は教育と研究を行うため、教育に係る人件費を1/2としました。

教員一人あたりの研究経費

研究経費総計
572,429千円

内訳
研究経費…… 507,878千円
教育研究支援経費×1/2…… 64,551千円

÷

→

（注）端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

column　岩手県立大学未来創造基金

本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動等を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金（1口1,000円）及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

○教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
○学生及び外国人留学生に対する支援事業
○産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
○被災地の復興を支援するために必要な事業
○施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業

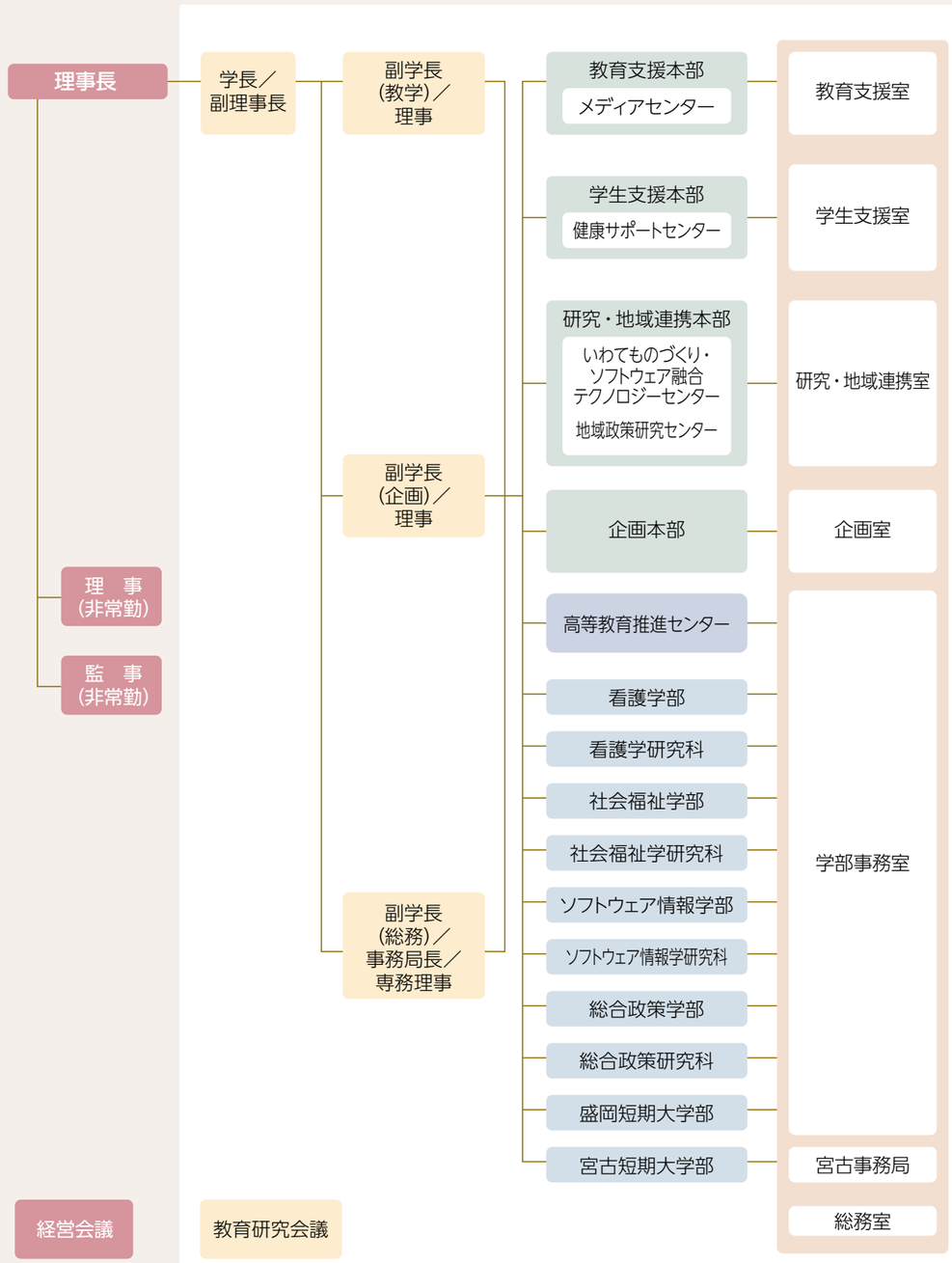
これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の充実や構内の外灯設置などに活用しています。

今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらいわての未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いします。

トレーニング室に設置されたトレッドミル

構内に設置された外灯

公立大学法人岩手県立大学



役員

公立大学法人岩手県立大学

理事長
千　葉　茂　樹

副理事長
鈴　木　厚　人

専務理事
堀　江　　淳

理事
石　堂　　淳

理事
狩　野　　徹

理事(非常勤)
藤　村　文　昭

理事(非常勤)
小　原　　忍

監事(非常勤)
桝　田　裕　之

監事(非常勤)
三　河　春　彦

岩手県立大学	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
学長 鈴　木　厚　人		
副学長(教学)／高等教育推進センター長 石　堂　　淳		
副学長(企画)／研究・地域連携本部長 狩　野　　徹		
副学長(総務)／事務局長 堀　江　　淳		
教育支援本部長 猪　股　俊　光		
学生支援本部長 似　鳥　　徹		
企画本部長 橋　本　浩　二		
看護学部長 看護学研究科長 福　島　裕　子	盛岡短期大学部長 菊　池　直　子	宮古短期大学部長 松　田　　淳
社会福祉学部長 社会福祉学研究科長 高　橋　　聡		
ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長 亀　田　昌　志		
総合政策学部長 総合政策研究科長 高　嶋　裕　一		

理事長
千葉 茂樹

副理事長／学長
鈴木 厚人

理事／副学長(教学)／高等教育推進センター長
石堂 淳

理事／副学長(企画)／研究・地域連携本部長
狩野 徹

専務理事／副学長(総務)／事務局長
堀江 淳

教育支援本部長
猪股 俊光

学生支援本部長
似鳥 徹

企画本部長
橋本 浩二

看護学部長
看護学研究科長
福島 裕子

社会福祉学部長
社会福祉学研究科長
高橋 聡

ソフトウェア情報学部長
ソフトウェア情報学研究科長
亀田 昌志

総合政策学部長
総合政策研究科長
高嶋 裕一

盛岡短期大学部長
菊池 直子

宮古短期大学部長
松田 淳

※令和2年5月1日現在

教職員数

	岩手県立大学	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
教　　授	63	7	4
准 教 授	71	9	5
講　　師	37	6	5
助　　教	11	3	0
助　　手	15	0	0
研究員等	4	0	0
教 員 計	**201**	**25**	**14**
職　　員	159		
教職員計	**399**		

滝沢キャンパス

看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・
総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・
看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・
総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
TEL 019-694-2000　FAX 019-694-2001
〈施設概要〉敷地面積（実　測）35.1ha
建物面積（延べ床）81,304㎡

地域連携棟（いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター）
〒020-0611 岩手県滝沢市巣子 152-89
TEL 019-694-3330　FAX 019-694-3331

宮古キャンパス

宮古短期大学部

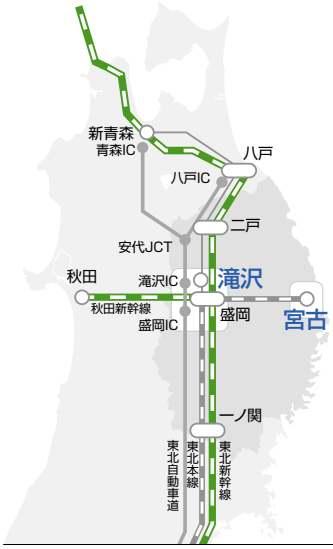
〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230　FAX 0193-64-2234
〈施設概要〉敷地面積（実　測）5.6ha
建物面積（延べ床）8,664 ㎡

アイーナキャンパス

サテライトキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）7 階
TEL 019-606-1770　FAX 019-606-1771
〈施設概要〉学習室、セミナー室等12室

岩手県立大学 アクセスマップ



滝沢キャンパスまでの経路

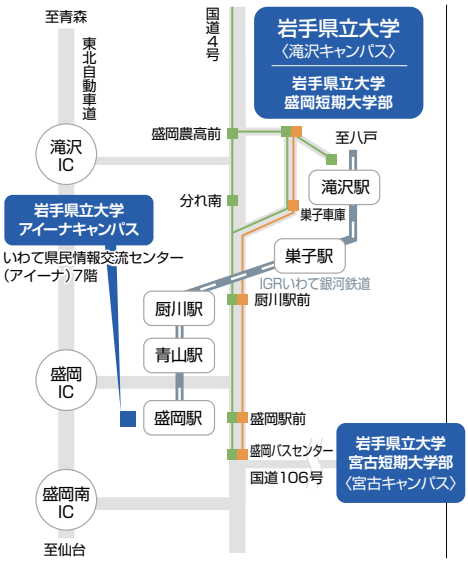
■バスで
岩手県交通「盛岡駅東口バス停②」から約40分、「県立大学前」バス停下車すぐ。

■鉄道で
IGRいわて銀河鉄道「盛岡駅」から15分、「滝沢駅」下車、徒歩約15分。
※「滝沢駅前」から「県立大学前」までの路線バスもあります。

■車で
東北自動車道「滝沢IC」から約5分（国道4号を青森方面へ出て、2つめの交差点を右折してすぐ）。

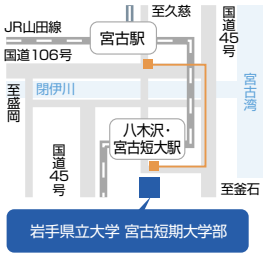
アイーナキャンパスまでの経路

盛岡駅西口から徒歩3分



宮古キャンパスまでの経路

盛岡から106急行バスまたはJR山田線で宮古駅まで約2時間。宮古駅バスのりば2番線から八木沢団地行乗車「八木沢一丁目」下車徒歩10分。または宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」下車徒歩15分。



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52
Tel019-694-2000　Fax019-694-2001
https://www.iwate-pu.ac.jp

詳しくはHPをご覧ください
岩手県立大学　検索